

かみ  
上ヲロウ・下ヲロウ遺跡(範囲確認調査)

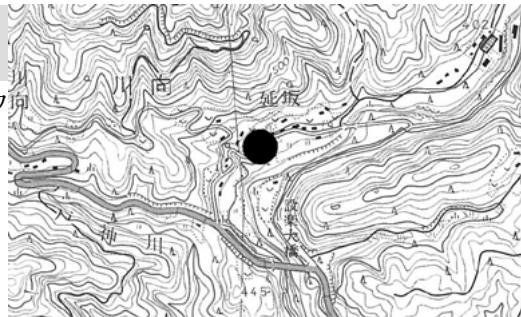
所 在 地 北設楽郡設楽町川向中空、上ヲロウ、下ヲロウ向  
(北緯35度6分50秒 東経137度34分1秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 平成28年6月～10月

調査面積 750m<sup>2</sup>

担当者 酒井俊彦・永井邦仁



調査地点 (1/2.5万「田口」)

**調査の経過** 調査は、国土交通省による設楽ダム建設事業関連埋蔵文化財範囲確認調査として、愛知県教育委員会を通じた委託を受けて平成28年6月～10月に行った。遺跡の現況は、耕作地と宅地跡である。調査は、1m×2mのトレーニングを220か所設定し、9か所では最大3m×20mのトレーニングを設定した。重機掘削後、遺構検出と土層断面観察を実施した。

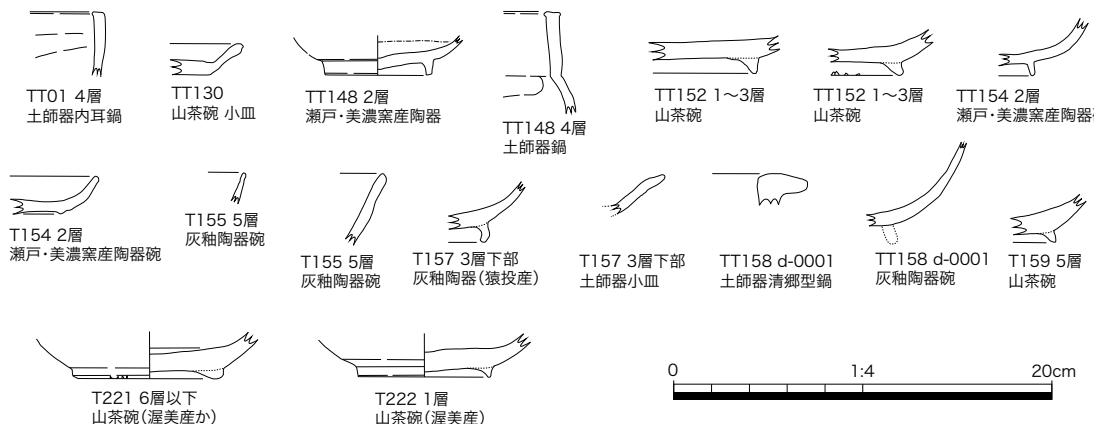
**立地と環境** 上ヲロウ・下ヲロウ遺跡は、境川右岸の段丘面から山地へ上の緩斜面に立地する。遺跡の標高は385～425mである。遺跡の中央には、大空前遺跡から流下する沢(中空沢)があり、その付近は土石流地帯である。「大空」や「中空」は斜面地に多い「ソレ」地名である。

**調査の概要** 調査の結果、字中空に相当する土石流地帯での顕著な遺構・遺物の検出はなかった。ただし同じ緩斜面でも東部の字上ヲロウでは、TT125～TT163で灰釉陶器～戦国時代の陶器が出土し、中世を中心とする遺構・遺物の展開が想定される。特に遺跡東端の沢付近では土石流堆積の下に黒色シルトの包含層が残存しており、注意を要する。

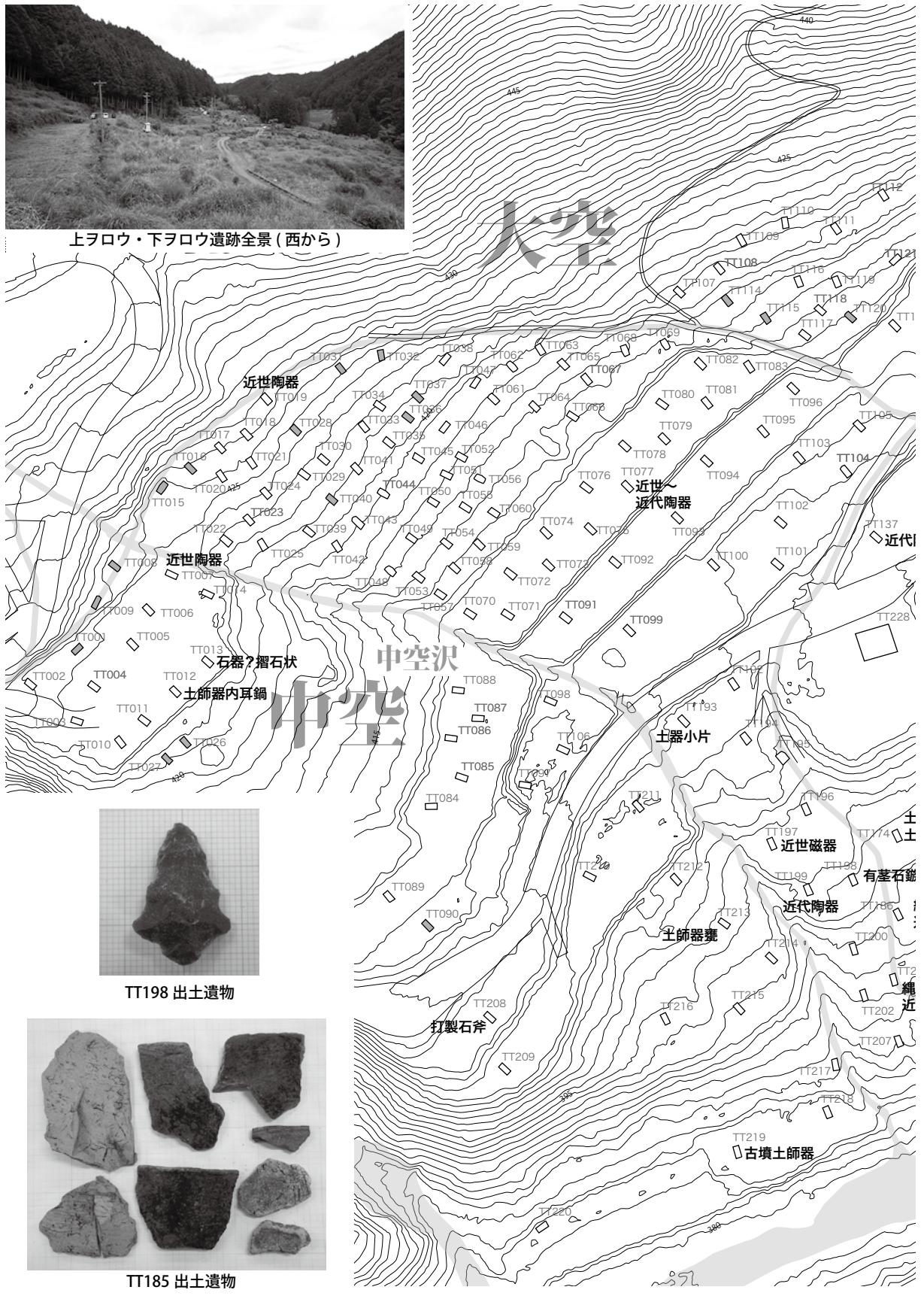
次に、道路から下位の字下ヲロウでは道路付近で山茶碗や土師器が出土し(TT167・169・220)、さらに川近くの水田まで下ると、縄文土器や石器の出土が認められる。特にTT231では黄褐色シルトの基盤層を検出面として縄文時代中期後葉の竪穴建物跡などが検出されている。当該トレーニング付近では新しい時期の小さな沢が入り込んでいるが、遺構の残存状況が良好と考えらえる。

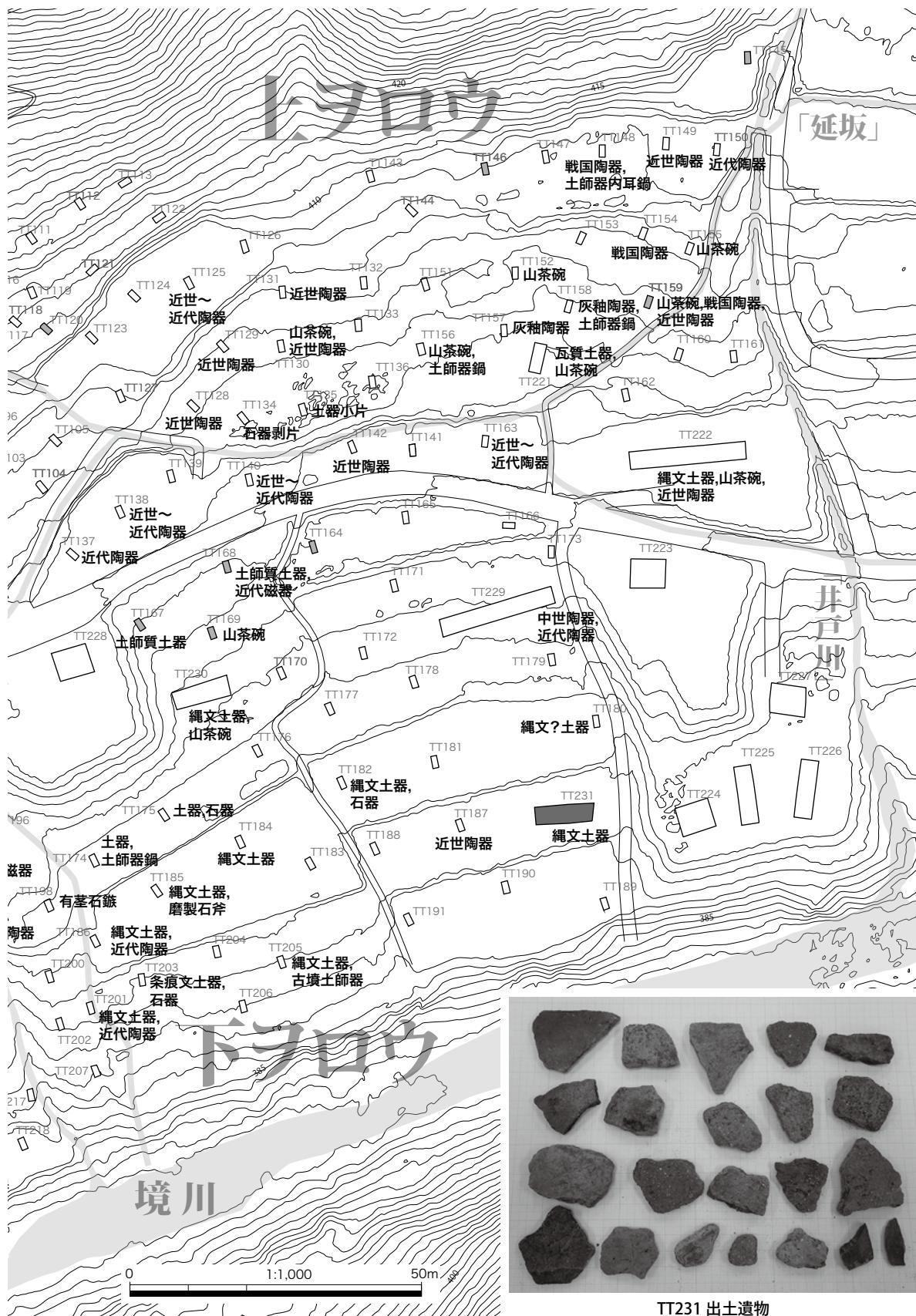
一方、TT231から西方のTT174・175・184・185などでは、縄文時代晩期の土器や石器も出土し、中空沢近くのTT198では有茎石鏃も出土している。加えて沢の西側でも土師器が出土しており(TT213・219)、沢が比較的最近のものであることを示している。したがってここでも土石流堆積の下に縄文時代～古代の遺物包含層の展開を想定しておく必要がある。

(永井邦仁)



上ヲロウ・下ヲロウ遺跡範囲確認調査の出土遺物実測図 (S=1/4)





TT231 出土遺物

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の調査成果(東半部、S=1/1,000)